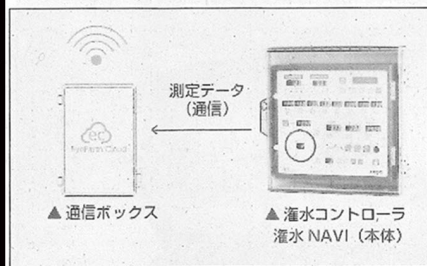


灌水作業の自動化実現

ニッポニクラウド対応で労力削減



ニッポニ岩槻憲一社長、埼玉県川口市は9月1日から、灌水コントロール「灌水NAVI」を遠隔で管理できるクラウドサービスを開始した。同社ではコロナ禍における接触機会の低減と労力削減をさらに進めるため、栽培管理の中でも作物の生育に大きく関わる灌水作業の自動化をクラウド対応によって実現。ハウスの灌水管理の利便性が向上した。

今回のクラウド対応により、統合環境制御まで必要のない小規模、雨除けハウスの農家も遠隔でハウスの灌水管理ができるようになる。

灌水NAVIは8系統の灌水を管理。日射積算による自動灌水の他、設定した時刻に各系統を順次灌水する「タイムマモード」や外部機器からの信号を受けての灌水を受ける「外部連動モード」に切り替えができる。また、一日に指定した回数だけ灌水に液肥を混入させて施肥を行う。

灌水NAVIを導入し、点滴チューブを使う▽いつでもどこでも遠隔で灌水管理で安心▽外出先からスマートフォンやタブレット端末を使ってハウスの灌水状況を把握することができる。設定通りの灌水ができていないか、灌水量や灌水回数に異常がないか、作物の生命維持につながる大事な灌水状況を遠隔管理できることで、安心してハウスを離れることができる▽拡張機能で複数の環境をモニターし、各コントローラと接続すれば温度・湿度・飽差・炭酸ガスのデータ収集、モニターリングができるため、環境測定器としても使用できる。複数の環境をモニターリングすることで、栽培環境や管理方法の見直し、従業員とのデータ共有、後継者の育成なども役立つ。

「灌水NAVI」をクラウド対応

に指定した回数だけ灌水に液肥を混入させて施肥を行う。

減し、巡回の頻度を減らすことで人同士の接触機会を減らすことができる▽いつでもどこでも遠隔

も役立つ。